

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371600640		
法人名	(有)アメニティホーム		
事業所名	アメニティホーム塩釜 2Fユニット		
所在地	愛知県名古屋市長白区元八事3丁目321番地		
自己評価作成日	令和3年9月18日	評価結果市町村受理日	令和4年3月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2371600640-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市長白区三本松町13番19号		
聞き取り調査日	令和3年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居されている利用者様が施設で生活をしているというよりも家庭的で安心して穏やかに過ごせる生活の場として暮らしていただけるようにひとりひとりの個性やペースを重視して、職員が安全に支援し家庭的なグループホーム作りを目指している
 スタッフ一同感染予防対策を徹底しており、主治医はもちろん他専門医療機関とも繋がりをもち緊急時や専門分野においても敏速に対応できるようになっている
 コロナ禍で密な交流は自粛してありますが文章やSNSで情報提供やご家族にご利用者様の様子をお伝えするなどし家族とのコミュニケーションも大切にしている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは同一建物内にデイサービスを運営しており、利用者がデイサービスからグループホームに生活場所を移行していることが特徴でもある。慣れ親しんだ地域の方でもあつて、感染症問題が起る前までは、デイサービスで行事等が行われる際には、ホームからも利用者が参加する機会をつくり、友人、知人との交流の機会も得られており、入居前からの馴染みの方との関係継続にもつながっている。医療面での連携も充実しており、協力医との定期的及び随時の連携の他にも、ホームに協力医療機関にも関係している看護師が勤務していることで、利用者の健康状態に合わせた協力医との連携や医療面での支援にもつながっている。利用者の中には、ホームで最期を迎えた方もあり、住み慣れた地域での生活を継続しながら、最期まで過ごすことができる支援体制が整えられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	各フロア入口に理念を掲げ、また生活記録ファイルにも掲載しているので常に職員が確認できるようにしている	利用者を第一に考えることを目指した内容の理念を職員の支援の基本に考えながら、ホーム内に掲示が行われている。また、日常の日記にも理念を記載しており、職員間での理念の共有と実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	昨年に続きコロナの影響で自粛をしているが町内会に参加し、敬老のお祝いや地域の子育てサロンとの交流もあり地域との繋がりを大切にしている	感染症問題が続いている状況のなかで、地域の方との交流が困難になっているが、徐々に地域の方との交流を再開する等、現状で可能な取り組みが行われている。また、地域子育てセンターとの交流も継続している。	地域の方との交流については、可能な部分から再開に動いているが、今後の状況もみながら、再開に向けた取り組みが増えることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	たまに直接来られたり電話による相談などはあるので親身になって対応しております		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今年もコロナの影響で自粛スタイルですがアンケートなどで意見や要望を聞いたりSNSを用いて状況報告や意見交換をして向上に努めている	会議については、行事等を通じた取り組みが行われており、昨年度から参加者を限定しながら会議が行われている。家族の参加については控えていただいている状況であるが、会議の報告は継続して行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議や施設のイベント等の情報を送り継続的に協力を得るように心掛けている	市の担当部署との情報交換や市の研修会等への参加については、併設事業所を通じても行われており、ホームの運営への反映につなげている。また、地域包括支援センターの取り組みにホームからも管理者が参加、協力する取り組みも行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的に社内研修を行い勉強をしている利用者様の様子をしっかりと把握し身体拘束をしない方法を常に考えるように務めている	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、利用者がホーム内を自由に移動できるように、ホーム内は開放的な雰囲気づくりが行われている。また、身体拘束に関する定期的な検討委員会や職員研修の取り組みが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束同様定期的研修を行い虐待のない施設作りを意識している 管理者は常に職員とコミュニケーションを図り意見や相談をうけアドバイスしたり、利用者様の状態を把握している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修に参加し勉強し資料等職員で共有できるようにしている 必要に応じて管理者が対応している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時はしっかりわかりやすく家族様に説明し疑問・質問等に的確に答え納得して頂いた上で契約に至っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	常日頃から職員と家族様とのコミュニケーションが取れており意見・要望が言いやすい環境が整っているのもその場で意見や相談に乗ることが多く管理者と家族は常に連絡が取れる関係性が出来ている	定期的に行われている家族との交流が困難になっているが、家族からの要望等については管理者で把握及び対応を行い、内容にも合わせて法人代表者に報告されている。また、毎月の利用者毎に合わせた便りの作成も行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のカンファレンスミーティングで、意見や提案の機会を設けている。 常に管理者は職員の近くにおり、すぐにコミュニケーションをとり個別でも相談できる環境も作っている	毎月の職員会議が行われており、職員間で意見を出し合いながらホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、法人代表者による職員面談の取り組みも行われており、職員一人ひとりの把握につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者は常に現場の状況を把握しており何か問題などあればすぐに代表者へ報告し改善している双方ともに職員一人一人とのコミュニケーションもしっかり取って頂いている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内・社外研修を通じてキャリアアップ出来るように取り組んでいる 新しい情報などもミーティングなどで発信もしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	今年もコロナの影響でなかなか難しいがリモートやできる範囲内で研修に参加したりしながら同地域の同業者との交流を増やしていけたらと思っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	バックグラウンドアセスメントを活用したり、事前に家族や本人の話を聞いてそれをまとめ職員もそれぞれ信頼関係を築き情報共有し安心して生活出来るように支援している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	管理者だけでなく職員全員とコミュニケーションが取れたり、家族様が気軽に相談できる環境を作っている 要望なども職員全員が把握できるように情報共有も徹底している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	コミュニケーションをたくさん取ることによって信頼関係を築き心の声を聴きニーズを引き出し支援の内容や方法を考えていくようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	共同生活をする家族に近い関係作りを目指し一方的に介助するのではなく協力し合って家事をするなど役割分担も出来ている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族様ともしっかりコミュニケーションを取り時にはご家族様にも協力してもらいながら支援したり様々な方法を考えることができています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	今年もコロナの影響で難しいけれど基本的にはこれまで交流があった方との交流が絶えないように電話でお話したりSNSで情報交換している 家族様へも馴染みの環境に添えるように提案もしている	ホームで生活している多くの利用者が併設のデイサービスから移行している方でもあることで、ホームへの入居前からの馴染みの関係にもつながっている。また、現状は困難になっているが、家族との外出の機会もつくりされており、関係継続につなげている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合う利用者様同士同じ作業が出来る利用者様同士で同じテーブルにしてみたり、時には席替えをして皆が関わりあえるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	必要に応じて相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	希望や要望があればしっかり聞き入れ安全に添えるようにカンファレンスなどで話し合い遂行している スタッフは知恵を出し合って一番良い方法を考えている	職員間で利用者を担当する取り組みや毎月の職員会議の際にはカンファレンスも行われており、利用者に関する職員の気付き等を専用の用紙も活用しながら出してもらい、利用者の意向等を検討し、日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	バックグラウンドアセスメントや家族様のお話から情報等共有し過去の暮らしぶりを記してファイリングしいつでも閲覧できるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日の生活記録や申し送りの中で変化等あればすぐに連絡しあい連絡帳を活用し状況の把握また情報共有をしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月のケアカンファレンスでの話し合いと事前にご家族様からの要望をお聞きした事を照らし合わせて計画に反映している いつでもご要望があったときはすぐに対応できるように定期外ミーティングも行っている	介護計画については、6か月での見直しが行われており、利用者の状態変化等に合わせた対応が行われている。また、日常的な記録の活用や担当職員も協力しながら毎月のモニタリングが行われており、介護計画の内容の確認が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者様一人ひとりの生活記録とは別で特記事項等あれば連絡帳を活用したり時には差し込みで情報をわかりやすく共有できるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	状況に応じて出来る限りの対処やケアに柔軟に対応できるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の行事などに参加したり民間の地域資源との関わりを持つ事で施設をオープンにってもらったりと安全と安心を確保しているように努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	定期的な往診と緊急時の対応により管理者のみではなく職員全員が医師とのコミュニケーションを図っている 主治医だけでなく近隣の医療機関とも幅広く関係性をもっている	協力医とは定期的及び随時の医療面での連携が行われている他にもホーム職員による受診支援も行われており、利用者の健康状態に合わせた対応が行われている。また、ホームに看護師が勤務しており、協力医との連携や医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師とも職員個々や家族も気軽に相談等できるような環境であるので連携がしっかりとれている 何かあれば看護師もすぐに連絡が取れて対応してもらえる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ほぼ入院する病院は同じであるので施設側と病院との関係もある程度出来ているし、主治医が敏速に対応して頂けるので安心はしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	職員は常に研修により終末期の対応など学んでいる 医師から判断が出た時は速やかに家族へお話しをして今後のケアなど方針を決め計画作成し協力して支援している	ホームでは、利用者の看取り支援が行われており、複数の方がホームで最期を迎えている。利用者の段階に合わせながら、家族とも意向やホームで支援可能な内容の確認が行われている。また、職員研修等の取り組みも行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時のマニュアルを作成しており、定期的に社内研修としても訓練しどの職員も対応が出来るように努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的な避難訓練の実施 夜間の火災の想定や近くの川の氾濫による水害も想定し訓練を行っている 地区の災害訓練にも参加している	年2回の避難訓練については、夜間を想定した訓練や併設のデイサービスとの合同の訓練が行われており、様々な状況を想定した取り組みが行われている。また、備蓄品については、利用者毎に必要な量を確保する取り組みが行われている。	利用者の避難誘導に困難な伴うことが予測されるため、利用者の避難誘導に関するホームの継続的な取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者様一人ひとりの人格や背景を把握し、尊厳を持った対応をするように研修も行っている	利用者の対応等を職員間で確認するように、管理者からも注意喚起が行われている。また、職員による接遇にもつながる研修の機会もつくられており、職員の振り返りにつなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	基本的に利用者様のペースを見守り支援している いくつかの提案の中から自己決定しやすい様にも配慮している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様の生活スタイルやご本人の要望を優先に考えケアプランに反映している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	利用者様一人ひとりの好みの服装や格好を職員は把握している 容姿が乱れていれればすぐに整容している スキンケアなど愛用品の購入もしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	完全に手作りで食事を作っているため、ひとりひとりの好みに合わせたり、嚥下状態にもしっかり対応できている。下準備や洗い物なども率先して手伝ってくださる利用者様もいるので協力し合っている	食事については、基本的なメニューを参考に、ユニット毎に調理が行われており、おやつ作りや季節等に合わせた食事等、利用者の好みや嗜好等に配慮した支援が行われている。また、利用者の嚥下状態に合わせた食事形態の対応も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	嚥下状態などに合わせて食事の形状など変えたり摂取しやすいように器なども工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	出来る方は基本ご自身で歯磨きなどをしてもらっているが最後の仕上げを職員がチェックしている。定期的な訪問歯科もあり衛生状態も診てもらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	一人ひとりのリズムやパターンを表にして共有し、トイレ誘導など失禁など失敗のない様に努めたりトイレの習慣を身に付けれる様に支援している	利用者全員の排泄記録を残し、日常的に職員間で情報交換を行いながら、一人ひとりに合わせた排泄支援が行われている。トイレでの排泄を基本に、協力医や看護師とも連携した医療面での支援も行いながら、排泄状態の維持、改善に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事の形状に気を付けたり、体操や歩行運動により腸の働きが低下しないように考えている 必要に応じ医師の指導の下便秘薬を使用しコントロールしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	お好みのお湯の温度や浴槽に浸かる時間など利用者様に伺いながら支援している 基本的には週2だが、失禁時や希望時はその都度対応している	週2回の入浴支援が行われているが、利用者の状況等にも合わせた随時の対応も行われており、定期的な入浴につなげている。身体状態が重い方も入浴ができるように職員間での検討も行われている。また、季節等に合わせた入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	基本的に利用者様が休みたい時に休んでもらっている 日中も様子を見ながら声掛けもしている 部屋の温度調整などは聞きながら行なっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	最新の処方箋がすぐに観れるように貼ってあり情報共有や把握が出来ている 薬剤師とも薬の相談も行なっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	好きなことややりたいことなど一覧にしたりバックグラウンドアセスメントなどで個々の情報を把握している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常では気候が良い時は散歩に出かけたり、計画を立てて遠方へ出かけるなどしているが今年もコロナの影響で難しいのでそれに代わる施設内でできる楽しみを設けている 施設周りの散歩など密にならないような外出は行っている	利用者の外出が困難になっている状況が続いているが、ホームの近隣を散歩したり、敷地に出る等の支援が行われている。自動車を活用したドライブに出かける機会をつくり、季節等に合わせた外出にもつなげている。	利用者の外出が困難になっている状況が続いていることもあるため、今後の状況もみながら、利用者の外出の機会が増えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	いくら持っているかなど把握や管理は施設で行っているが喫茶店など行くときは持って出かけたり ご自身で使う日用品(消耗品)を一緒に買いに行く事もある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯を持っている利用者様が好きな時に電話を掛けてもらっている 携帯がなくても施設に掛けてもらいお話をすることもある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	職員が持って来たり作った季節に合わせて装飾をしたり、みんなでレクリエーションで作成したものを飾ったり、写真を貼っている 季節のお花など飾ったりしている	ホーム内は広く、ゆったりとした空間が確保されており、利用者の毎日の生活で圧迫感を感じないような生活環境がつけられている。また、リビングや通路の壁面には、利用者の作品や写真の掲示が行われており、アットホームな雰囲気づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブル席では気の合う利用者様と食事をしたり、一人で新聞を読んだりするときは自由にしようできるソファに座ったりそれぞれ思い思いに過ごしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入所時に馴染みの家具など自由に持ってきていただいたりご本人様のお好きな装飾や空間作りを家族様やご本人と一緒にしている レクリエーションで作ったものをかざったりもしている	居室には、利用者や家族の意向等にも合わせた様々な持ち込みが行われている方やシンプルな雰囲気の居室の方もあり、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、ベッドが備え付けられており、現状、全員の方がベッドで生活している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	役割や生きがいを感じていただけるように空間作りや雰囲気作り心掛けている		